

正するため、消防団を再編成すべきだと思いが、町長の考えを伺いたい。

〔答〕マンモス化した栗山区の分団問題は、懸案事項となっているが、現在消防団が団長を中心として、分団・部の整理統合を検討しているので、この問題はその中で解決を図るよう指導していく。



国・県・公団等の事業と町の対応

■新産業三角構想

〔問〕県が発表した新産業三角構想が、わが町に与える効果は、どの程度予測されるか。

〔答〕町に直接影響を与えることはないと思う。ただし、木更津から内陸部を通り、東金を経て筑波方面に至る道路（国道409号線）が三角構想に位置づけられているので、これに山武中央道と連絡することにより、町の発展につながる事ができるのではないかと予測している。

■空港2期工事

〔問〕成田空港の早期完全整備が望まれているが、2期工事への動きはどうなっているか。

〔答〕60年度の国家予算では、2期工事の調査費として22億円が計上され、完全整備に向けてよいよスタートが切られた。反対運動は依然として根強く、未買取地も33ヘクタールほどあるので、簡単に完成するとは思われないが、59年度に、当町を含め周辺市町村が空港完全整備促進の決議を行うなど、2期工事への気運は非常に高まっていると言える。

■芝山鉄道の延伸

〔問〕芝山鉄道の九十九里海岸への延伸を図るため、過日延伸推進協議会が作られたと聞くが、その構想と町の対応は。

〔答〕昭和56年に芝山鉄道会社が発足し、京成空港駅から芝山町まで約2・7キロメートルの路線が計画されている。これを九

十九里海岸まで延伸し、空港裏側地域の発展を図ろうとする目的で、協議会を設立した。

3月議会終了後、運輸省・公団に対して直ちに陳情を開始する予定である。

芝山鉄道の延伸は、21世紀に向かつての大きな夢として、今後この協議会を中心に息の長い運動を展開していきたい。

■山武中央道の建設見直し

〔問〕坂田遠山線と連結する山武中央道（通称・空港道路）の、今後の建設見直しを伺いたい。

〔答〕山武中央道は63年度完成をめざして、現在事業が進行している。松尾の猿尾トンネルが貫通すれば、山武土木管内は工事が完了するが、成田土木管内で用地買収が約3割しか済んでおらず、完成は予定よりもやや遅れるのではないかとと思われる。

■坂田池開発

〔問〕坂田池は、水資源開発公団の調整池として位置づけられているが、今後の開発計画はどうなっているのか。

〔答〕坂田池周辺開発は、町の将来に向けての大きなプロジェクトの一つである。水資源開発公団が63年度までに坂田池の整備を行うことになっているので、町はこれを受けて周辺の開発を進めていく方針である。

■国鉄の複線化



拡幅改良を待つ栗山川

〔問〕国鉄総武本線の複線化の見込みはあるのか。

〔答〕県知事が会長となり、19市町村が「複線化期成同盟」を組織して運動を展開しているが、現在の国鉄の状態では、複線化は不可能に近いと考える。

■子どもの国周辺開発

〔問〕海の子どもの国周辺の開発について、町は今後県にどう要望していく方針なのか。

〔答〕昨春秋に沼田県知事が現地を視察した。61年度からスタートする県の5か年計画の中に、子どもの国周辺開発を盛り込んでもらうために、現在折衝を続けているところである。

■栗山川改修

〔問〕栗山川は河口から順次改修が行われているが、今後の改修

見込みは。

〔答〕現在、河口から2・8キロメートルの地点まで改修が進んでいるが、国の予算が十分につかず、1期工事の木戸橋まででさえ、あと10年はかかる見直しである。

■県道の改修

〔問〕横芝上界線をはじめとする県道の改修計画はどうなっているのか。

〔答〕現在、改修工事が行われているのは、上界線と、寺方地先の下総線の2路線である。上界線の拡幅（上界小まで）は62年度に、下総線の歩道設置は61年度に、それぞれ完成の予定である。その他の県道についても、狭く屈曲した部分の改修を県に強く要望していく。

町税の賦課と徴収

■賦課の適正化

〔問〕町民税の場合、所得をどのように把握しているか。特に農業所得についてはどうか。また60年度は固定資産の評価替えが行われるようだが、これによって税負担は増えるのか。

〔答〕申告期前に税務課全員の研修を行い、申告の受付事務に万全を期している。そして受付時に、収入額や控除額が適正かどうか、添付書類等を十分審査し、